郷土を語り
人々の輪が拡がる

東京奈良県人会だより

編集発行所：一般社団法人　東京奈良県人会　発行人：柗本　俊洋（2016 年秋号）
〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-6-3 奈良県東京事務所内　電話 03-5210-2838　HP:http://tkynarakenjinkai.jimdo.com/

TOKYO NARA HUMAN NETWORK NEWS　NO. 39

平成28年度東京奈良県人会総会

平成28年度総会が平成28年６月７日午後６時から東京都千代田区のホテルグランドパレスで43人が出席し開催された（出席会員43人、委任状59人　計102人）。議長に五味原副会長が選任され議事が進行した。以下の議事がすべて承認決定された。なお、議事資料は別途送付済み。

第1号議案＝平成27年度事業報告・収支決算報告・監査報告
第2号議案＝平成28年度事業計画・収支予算
第3号議案＝理事の選任
第4号議案＝会費変更

新役員は次の通り（敬称略）
特別顧問：荒井正吾、西与吏郎
顧　　問：上田蔵、木村忠夫、五味原廉
理　　事：柗本俊洋（会長）、植嶋平治（副会長）、中村陽子（副会長）、齊藤宗孝、阪本澄、鳥居富美江、中村慶一、藤本和大、別所史、松本昌之、森田文子、矢部創、吉村浄祐（五十音順）
監　　事：上田定博、菅野谷信宏

ここでは、新旧役員のあいさつと懇親会の模様を掲載する。

柗本・新会長あいさつ（吉野町）

西前会長から引き継ぐのは力不足で、けっして立派なことができないが、今回、若手の会から役員に４人が加入してもらい、魅力的な県人会をつくりたい。昨年から数えると若手の会から計７人が役員に選任された。東京奈良県人会若手の会は年々盛り上がりを見せており、他の県人会の模範となるような活動を展開している。また、奈良県人会は先輩方の努力で120余年続く、日本で最初の県人会といわれている。西会長には22年という長きにわたり県人会を引っ張っていただき、本当に頭の下がる思いだ。先輩方の遺した功績をはずかしめることのないようをがんばりたい。それには、会員を増やさなければならない。若手の会の会合には80人から100人は集まる。奈良県出身者だけでなく奈良が好きな人や興味がある人などを含めた新しい県人会のあり方を模索したい。奈良は国の中心だった。私のふるさと吉野の金峯山寺は「国軸山（こくじくさん）」と呼ばれる。つまり国の軸、中心地ということだ。その誇

りを持ちつつ東京でがんばっている奈良県人やゆかりの人たちが集まる県人会にしていきたい。皆さんと共に県人会の発展に尽力していきたい。西会長には名誉顧問に、木村さん、五味原さん、上田蔵さんには顧問にご就任いただきたい。この会を長年、多大な努力で運営されてきた皆さんの伝統の継承と若手の会の新しい血をまじえて新しい県人会をつくっていきたい。

西・前会長あいさつ（十津川村）

皆様のご協力のおかげで長年にわたり会長を務めさせていただいた。本当にありがとうございました。これからは陰ながら応援していきたい。

木村・前副会長あいさつ

平成6年に西会長から「県人会を手伝ってもらいたい」と声がかかった。それ以前は奈良とのかかわりはそれほどなかったが西会長のご依頼だったのでお受けした。それ以来、多くの方と知り合い数々の交流ができ、本当にありがたく思う。特に年に2回の会報発行をはじめ、110周年の際に県人会史「110年の歩み」の発行や平城遷都1300年祭に向けて委員会を設置し提言をまとめたことなどが印象に残っている。また、計6回にわたり郷土訪問旅行に参加し奈良県全体を訪問し勉強させてもらった。皆さんには大変感謝している。柗本新会長の下、新体勢で益々発展することと会員の皆様のご健勝をお祈りしている。

五味原・前副会長あいさつ

20数年間在籍した。私の親父が奈良県人だったが私は東京で育ち奈良のことはほとんど知らなかった。この会は異業種の方々と交流ができ、かつ利害関係が無く腹を割って話ができて非常に楽しくありがたかった。これからも県人会のお力になりたいと思う。本当にありがとうございました。

中澤修・奈良県東京事務所長　乾杯の発声

今年4月に東京に赴任し、まだ慣れないが奈良県の方がたくさんおられるところに参加すると安心する。県人会はいろんな事業を実施し、また若手の会でも趣向を凝らしたイベントを実施し首都圏でのネットワーク拡大にご尽力されている。皆さんには奈良県政にご協力いただき、深く感謝している。

新理事紹介

齊藤（吉野町）：来月還暦を迎えるが体力はあるのでがんばる。

別所（奈良市）：平成21年に上京してから奈良と東京を行き来している。生きた奈良の情報や人の交流に少しでもお役に立ちたい。

矢部（奈良市）：首都圏における「奈良」をキーワードに取材活動を行っている。今後は理事として微力ながら貢献したい。

松本（広陵町）：以前、上野公園で開いた「奈良フェスタ」が思い出深い。ぜひ２回目を開催したいと思っている。皆さんのご協力なくしては成り立たないのでともにがんばりたい。

高原伸太郎・柿の葉すし田中東京支店長（大和高田市）

弊社の柿の葉すしが先日、「秘密のケンミンショー」という番組にとても良い取り上げられ方をした。皆さんぜひご賞味いただきたい。

松岡昇司・三輪そうめん山本東京支店長（田原本町）

お土産の中にそうめんを入れているのでご自宅でお召し上がりいただきたい。お中元はぜひとも三輪そうめん山本をよろしくお願いします。

坂口紀代美・彫刻家、奈良市観光大使（奈良市）

アトリエはJR奈良駅から奈良町の間にあり、周辺では毎日外国人観光客が歩いている。いま、旧JR奈良駅舎は観光案内所として機能しており３ヵ国語で対応されている。イスラムの人たちがお祈りができる場所もある。リニアが走る前に奈良の中に魅力を作らなければ観光客を引き止めることはできないと思う。JR奈良駅周辺は列車から降り立つと「奈良」を感じられるような整備をしてほしい。

◉初参加者◉

金重昌宏・奥村組東京支店建築営業統括部長（大和高田市）

中学２年生から高校・大学・就職して３年目まで実家のある大和高田市で過ごした。７年前から東京で単身赴任している。県人会や若手の会はいろいろなイベントを開いていると聞いた。単身赴任なのでぜひ参加したい。

上田泰史（大和高田市）

４月から東京赴任した。それまでは大和高田を盛り上げようといろいろな活動を行ってきた。東京には妻と２人で出てきたので、倍返しで奈良に４人を送り込まなければならない。県人会のご協力をお願いしたい。

高松幸恵（東海奈良県人会）

奈良県人を見つけたら案内している。名古屋に来た際には東海県人会にお越しいただきたい。

齊田勉・奈良新聞社東京支社長

１年前に着任したが愛知県出身で奈良とは縁もゆかりもなかった。奈良の本社に出張した際は県内各地をレンタサイクルで巡り奈良を勉強している。国籍は変えられないが心はすっかり奈良県人だ。

平成28年度文化交流会

奈良県にかかわる文化人を招き、ふるさと奈良の魅力を考える平成28年度文化交流会が平成28年9月28日（水）午後6時20分から、東京都千代田区の都道府県会館4階会議室で開催された。第1部は、生駒市在住のフリーテレビカメラマンの保山耕一さん（53）が「奈良には365の季節がある」と題し、自身が撮影した映像を上映しながら奈良の魅力について講演した。約100人が参加した。奈良県内各地の四季折々の風景をとらえた美しい映像を参加者は息を呑んで鑑賞し、涙を流す人も見られた。第2部の懇親会は、同館近くの中華料理店「美膳」に場所を移し、講師の保山さんを囲みながらふるさとの話に花を咲かせた。

以下、講演と懇親会の概略を掲載する。

第1部

講　師：保山耕一さん・フリーテレビカメラマン（生駒市在住）

演　題：「奈良には365の季節がある」

会　場：都道府県会館4階会議室

柗本俊洋会長あいさつ

奈良県人会は、このままでいくと廃れてしまうのではないかという危機感を持っていた。数年前、若手の会が発足し、県人会理事会に若手の会から8人入ってもらった。今回は中澤奈良県東京事務所長のご尽力と若手の会の協力を得て、このように多くの方に参加してもらった。とても感謝している。きょうは、保山耕一さんというすばらしい映像作家をお招きした。ふるさとの美しい映像を楽しみにしている。

また、若手の会に参加していて、今年の夏の参議院選挙で奈良選挙区から当選した佐藤啓さんも出席されている。おめでとうございます。若い人が国会議員になる。これは当会にとっても奈良県にとっても大きな財産だ。これから佐藤先生にもご協力いただき、県人会を再構築していきたい。現在の会員は200人だが、今後400人にしたい。引き続き、奈良県が持つすばらしい歴史文化を皆さんと一緒に首都圏で発信していきたい。そして、奈良県には講師の保山さんのようにすばらしい才能を持つ人がたくさんいるので、そういう人をお招きし勉強し、文化の香りがする県人会にしていきたい。きょうはよろしくお願いします。

中澤修奈良県東京事務所長あいさつ

本日は大勢の方に集まっていただき、ありがとうございます。県は県人会や若手の会と共催の立場だが、企画運営のほとんどは県人会と若手の会の皆さんにやっていただいた。県人会と若手の会と奈良県東京事務所が一緒になって、このような催しを開催できることに大きな意義がある。きょうは保山さんの映像を楽しみにしている。

別所史理事あいさつ

保山さんは、US国際映像賞でドキュメンタリー部門の最優秀賞である「ベスト・オブ・フェスティバル」を受賞。フリーランスのテレビカメラマンとして、「THE世界遺産」「情熱大陸」「美の京都遺産」「真珠の小箱」

などの撮影にたずさわられた。ほかにもスポーツや音楽、バラエティなど多方面に活躍されていた。2013年に直腸がんと診断され、現在も抗がん剤治療を続けながら、「奈良には365の季節がある」というテーマを映像にすることをライフワークとしている。私が保山さんと出会ったのは2年ほど前、ある展覧会で流れていた奈良公園飛火野の映像を観たのがきっかけだった。私は中学・高校が飛火野の近くで毎日通っていたが、映像にある飛火野の風景は観たことのない美しさだった。一緒に映像を観たフランス人が「この場所に行きたい」と言うほどで、そのとき映像の持つ力を感じ、この映像を撮られた方に会いたいと思い、奈良に帰ったときにお会いした。それ以来、保山さんが撮られたいろいろな映像を観させていただき、「リアルを超えた映像」という印象を持った。今年の2月に春日大社（奈良市）で保山さんの映像を上映する機会があり、リアルを超えているわけではなく、リアルを忠実に撮られていると感じ、そのことに気付かない私がいることに、はたと気付いた。都会に暮らしていると自然の美しさを感じる感覚が鈍くなっている。保山さんの映像は、それを抽出しわかりやすく表現している。昔の人は見えないものに美を感じていたというが、私たちが忘れかけているそういう感性が呼び覚まされる映像だ。

保山耕一さん講演

過分のお言葉をいただき、後ろの扉から帰ろうかと思ったほど恐縮している。ありがとうございます。皆さん、私のことを知らないと思うので、まずは、私も昔、担当したことのある大阪ローカル番組「ちちんぷいぷい」に取り上げられた映像を観てもらいたい。

「ちちんぷいぷい」上映

ありがとうございます。きょうはしゃべりながら映像を上映していくので、お付き合いいただきたい。

3年前に自宅で突然倒れた。それまではフリーのテレビカメラマンとして世界中の美しい風景を撮っていた。病院で末期の直腸がんと診断された。大阪の癌センターで大腸の名医にセカンドオピニオンをしてもらうと、「放っておけば余命2ヵ月」と言われた。私が「助けてほしい」と頼むと、医師は「現在、満床なので3ヵ月待つか、他の病院に行くかだ」と言った。現実を知って絶望した。その後、東京のがん研究有明病院で最新の治療を受け、いま生きている。そこでも5年後の生存率は10％もなく再発では5％もないと言われた。がん研はすごくいい病院で最高の医療だった。1ヵ月ほどの入院生活でスカイツリーやレインボーブリッジ、朝日や夕日、となりの公園の木々が風に揺れ、鳥が飛ぶ姿などを見ることができたが見えるだけで感じることができなかった。病院では自殺できないように窓が開かないようになっているからだ。そのことが不自然で、風や雨、太陽の暖かさを感じたいと思った。10センチだけ開く窓から手を伸ばし降っている雨のしずくを感じたときに生きていることを実感し、涙が出た。退院後、奈良に帰り、抗がん剤治療を続ける日々にまったく生きている実感が無かった。それまでの30年間は毎日カメラをかついで走り回り、毎日何十通というメール

や電話を受ける生活から、カメラが無くなり、1通の電話もメールも来なくなった。例えるなら両手の上に築き上げた砂の城の砂が指の間から流れ落ちたような感じだった。生きている実感を得るにはカメラを持ち撮影するしかないと考えた。それまでの撮影はディレクターがいて台本があり、その指示に沿ったものだった。初めて自分が撮りたいものを自問自答した。そこで思い浮かんだのが慣れ親しんだ奈良の風景だった。私は世界中の世界遺産を撮影しすばらしい絶景を見てきた。それでも奈良を撮りたいと思った。ひいき目ではなく世界を見たからこそ奈良のすばらしさがわかった。私が好きな風景の1つに東大寺大仏殿の北側の大仏池がある。いま、奈良公園は外国人観光客であふれかえっているが、あのあたりは静かでほっとできる場所だ。それにすごくいい風が吹く。不思議と1年中、春日山の方からさわやかな風が吹いてくる。これから観てもらう映像は桜の開花宣言の1日前に撮ったもの。桜が咲く時期や大仏池から西の空を見上げると美しい夕日が眺められることはわかっていた。風を感じたい、雨を感じたい、日差しを感じたいと思い、再びカメラを手に取り撮影し始めた。

それまでは何百万円もするカメラを使っていたが3万円のカメラで撮影し始めた。情けないと思った。そんなとき、「幕末の三筆」といわれる貫名(ぬきな)菘翁(すうおう)という書家は85才の時に中風で倒れ、会話執筆ともに困難になるがくじけず、身体が震える中で筆を握り続け書画の制作に打ち込んだ。このときの作品を「中風様」と呼び、傑作とされたという話を聞いた。 また、前の春日大社権宮司の岡本彰夫先生に「道具やない。積み重ねてきたことがあるやろ」と助言いただいた。あるとき、なにげなく春日大社の参道の溝を見た。30年間、春日大社に通ってきたが溝を見ることはなかった。少量の水が落ち葉を流していた。その光景が心に残った。それから足元を見るようになった。そうすると足元にも美しいものがあった。それから「神様の気配」を探して奈良県内を歩くようになった。暑い日や寒い日、雨や風、雪の日。一日一日が違い、季節の移ろいが感じられた。奈良のすばらしさを実感した。毎晩、寝る前に3分間だけ、その日撮影した映像をフェイスブックに掲載した。撮影した地域の人から「地元のよさがわかった」と反響があり、役に立っている喜びを感じた。しかし、なかなか神様を撮ることはできなかった。時間をかけて各地を歩き、様々な風景を撮影していくうちに目にするものすべてが神様だと思えるようになった。どんなものも美しいと感じるようになった。そう感じることが幸せだった。私の頭の中には撮影活動で培った奈良の風景のデータが入っている。きょう、どこに行けばどんな風景が見られるか、どんな花が咲いているかがわかるようになった。

様々な風景を撮影してきたが桜だけはごまかせない。西大寺境内に大好きな桜の木がある。2015年の春、今年の桜が最後かもしれないと思った。その桜の最後の花びらが散る様子を撮影したいと木の傍らで50時間待ち撮影することができた。そして今年の桜も撮影できた。これからも奈良の美しい風景を撮り続けたい。

講演を聴いた参加者からは、「五感で感じることができた」、「60才を過ぎるが知らない場所がたくさんあった」、「自然に涙があふれて止まらない」などの感想が寄せられた。

第２部・懇親会

会場：「美膳」（東京都千代田区紀尾井町３－33プリンス通りビルB１）

堀井巌参議院議員（橿原市）あいさつ

東京奈良県人会が、特に若手の会がこれほど活発なのは47都道府県の県人会でも一番ではないか。奈良県を支えてもらえる多くの皆さんに感謝をしながら、皆さんのご健勝と奈良県の益々の発展のために乾杯する。乾杯！

佐藤啓参議院議員（奈良市）あいさつ

今年の夏の参議院選挙で奈良県選挙区から初当選させてもらった。若手の会には総務省退職前から参加させてもらい、藤本さんをはじめ皆さんに大変お世話になった。なんとか当選して、この場に帰ってこられて本当によかった。保山先生のすばらしい映像を拝見し、奈良県の魅力を感じた。このすばらしい奈良県をもう一度見つめなおして全国へ、そして世界へ発信していくお手伝いをしていきたいと思った。引き続き、ご指導をお願いします。

以上

東京奈良県人会若手の会記録

第13回

2016年５月22日（日）13時～
岡本彰夫前春日大社権宮司講演
奈良まほろば館

東京奈良県人会若手の会第13回例会が５月22日（日）東京都中央区の奈良まほろば館で開かれた。春日大社（奈良市）前権宮司の岡本彰夫奈良県立大学客員教授が「近世　奈良の風情―幕末の宮廷と奈良」と題して講演した。約50人が参加した。

岡本さんは古文書「南都雑録」（享保13年）の史料を示しながら当時の春日大社・興福寺の石高が２万1119石あり、東大寺の3140石、長谷寺500石、薬師寺300石に比べていかに巨大だったかを示した。また、同資料から奈良県内の有名寺院のほとんどが興福寺の末寺であったことなどを説明した。

ときおりユーモアを交えた語り口に参加者は最後まで熱心に耳を傾けていた。都内在住で奈良市出身の40代の女性は「修学旅行で奈良を訪問する娘に聞かせてやりたかった」と話した。

岡本さんは「奈良県出身の若い人たちに奈良のすばらしさを伝えたい」と次回開催に意欲を示した。

第14回

2016年７月28日（木）19時～
第１部：吉原稔郎近鉄東京支社長講演
第２部：葛餅作りワークショップ
奈良まほろば館

東京奈良県人会若手の会第14回例会が７月28日（木）、東京都中央区の奈良まほろば館で開かれた。吉原稔郎・近鉄東京支社長が「奈良と近鉄」と題し講演した後、葛餅作りのワークショップを行った。参加者約70人のうち約20人が初参加だった。

吉原支社長は講演の中で、奈良県内を走る近鉄路線の豆知識や歴史などを画像を使いながら説明。県内の駅数は99駅（近鉄全体は286駅）で１日の乗降人員最多は奈良駅の54727人、最小は大阿太駅の108人などと紹介した。また、今年９月10日から新たに大阪・阿部野橋駅―吉野間を走る観光特急「青の交響曲（シンフォニー）」が運行開始すると発表した。

参加者は、映し出された昔の奈良の風景写真を見て「懐かしいなあ」などと口にしながら近鉄の豆知識を学んだ。また、第２部のワークショップでは、汗を流しながら葛粉をこね回し、手作りの葛餅作りを楽しんだ。

第15回

2016年10月30日（日）
奈良クラブ応援バスツアー
栃木県足利市の同市総合運動公園陸上競技場

東京奈良県人会若手の会第15回例会は10月30日（日）、JFL（日本フットボールリーグ）所属で郷土のサッカーチーム「奈良クラブ」を応援するバスツアーを実施した。関東在住の県出身者や奈良から参加したサポーターなど27人が参加。栃木県足利市の同市総合運動公園陸上競技場で行われたセカンドステージ13節の奈良クラブ対栃木ウーヴァ（栃木県）戦を観戦し熱い声援を送った。試合は奈良クラブが３－２で勝利した。

ツアーは同会運営委員会有志が発案。これまでも関東開催の試合には各々足を運んでいたが、一堂に集まりまとまって応援しようと企画、気候の良いこの時期を選んだ。

一行は同日朝９時に東京都中央区の奈良まほろば館に集結。会場までの約２時間、奈良から駆けつけたサポーターの音頭で応援歌を練習し、おおいに盛り上がった。会場到着後、「がんばれ奈良クラブ」と書かれた横断幕に寄せ書きし士気を高めた。

試合終了後、勝利の歌として「奈良県民の歌」を皆で歌い、喜び合う場面も見られた。

幹事で五条市出身の会社員加木哲也さん（39）＝東京都在住＝は「試合にも勝ち、有意義な企画となりよかった。応援を通して郷土の人たちとつながることができ楽しい１日となった」と満足気に話した。

奈良まほろば館からのお知らせ

奈良県人会の皆様には、平素から奈良まほろば館の運営にご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

奈良まほろば館は、リニューアルしてから3年目となり、品揃えが充実した大和野菜などの生鮮食料品を求めて来館されるお客様も、着実に増えてきています。今後とも、奈良の様々な魅力を首都圏で発信し、奈良ファンを増やしていけるよう努めてまいります。

なお、今年度下半期に予定している主なイベント等は下記のとおりです。

皆さまのご来館をお待ち申し上げております。

平成28年度下半期の実績・予定（10月～3月）

10月

- DEEP YOSHINO 下市町＆黒滝村まるごと満喫展（下市町・黒滝村）
- 神々の降る里 御所市（御所市）
- 橿原考古学研究所附属博物館（秋季特別展）ブリーフガイド

11月

- キトラ古墳周辺地区開園記念特別展（明日香村）
- 奈良の鹿に会いに行きたくなる写真パネル展
- 第6回仏像カレンダー展

12月

- 奈良の「食」魅力体験（柿などのPR）
- チャリティー書画展
- 奈良ブランド靴下の求評会
- 春日大社千年の至宝パネル展

1月

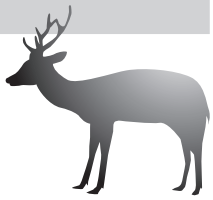
- JR東海「うましうるわし奈良」キャンペーンの紹介
- 漢方のメッカ推進プロジェクトの紹介

2月

- 大和地蔵十福霊場巡り展
- 橿原考古学研究所附属博物館（特別陳列）ブリーフガイド
- 奈良の「食」魅力体験（大和野菜などのPR）

3月

- 阿倍仲麻呂展



http://www.mahoroba-kan.jp/
電 話：03-3516-3931

※このほかにも「南都法話会」、「奈良・シルクロードの会」、奈良女子大学との連携講座や写経教室などの文化講座も実施しており、詳細情報や申込み等は奈良まほろば館のホームページをご覧いただくか電話でお問い合わせください。

【阿倍仲麻呂“遣唐”1300年記念プロジェクト】

「天の原　ふりさけ見れば春日なる　三笠の山にいでし月かも」

百人一首にも選ばれている、この有名な歌を詠んだ阿倍仲麻呂。その阿倍仲麻呂をはじめ、奈良時代（710年～784年）に活躍した下道真備（後の吉備真備）、玄昉らが派遣された「第9次遣唐使派遣（717年平城京遷都後初めての派遣）」から数えて1300年目にあたる2017年（平成29年）にむけて、奈良県では、平城京から派遣された遣唐使を多くの方々に知ってもらうことを目的に、「阿倍仲麻呂“遣唐”1300年記念プロジェクト」を実施しています。阿部仲麻呂を題材とした映像「三笠の山にいでし月かも」も製作され、You Tubeでも公開されていますので、ぜひご覧ください。

また、奈良まほろば館でも3月に阿倍仲麻呂の展示イベントを予定しております。

ふるさとコーナー　水源地のむら　川上村

＜概要＞　川上村は、奈良県の南東部に位置し、吉野川・紀の川の源流にある水源地のむらです。500年の歴史を持つ吉野林業発祥の地として栄えてきましたが、林業の不振やダムの建設などにより人口の流出が進み、昭和40年には7,500人を超えていた人口は、平成27年国勢調査では約1,300人となっています。

＜自然＞　川上村は、人工林の美しさに加えて、四季の移ろいを感じ、草花を愛でながら歩きたくなるところがたくさんあります。歴史を感じさせる史跡も多く点在し、初心者からベテランまでバラエティにとんだコースが楽しめます。また、川上村はきれいな水の宝庫です。渓流でのアユやアマゴ釣りをはじめ、清流での川遊びも多くの方々に大人気です。村内には数多くの滝もあり、それぞれの雰囲気が違うのはもちろん、季節によって趣を変え、見る人の心を魅了します。中でも「御船の滝」は、高さ約50メートル、二段になって水が勢いよく流れ落ち、冬季の氷瀑は文殊菩薩を現すとも言われ、知恵を授ける滝と伝えられています。

御船の滝の氷瀑

湯盛温泉 ホテル杉の湯

＜温泉＞　水源地の村に湧きでた湯量豊かな湯盛温泉は、清らかで、緑の景色ととけあい「ほっこり」と心も体もあたためます。その湯盛温泉を源泉とする「杉の湯」では、高野槇づくりの内風呂や天然岩の露天風呂があり、日帰り入浴も可能です。道の駅「杉の湯川上」を併設し、特産品なども販売しています。

入之波温泉「山鳩湯」は、黄褐色の含炭酸重曹泉が湧出する全国でも珍しい温泉です。杉の丸太造りの大浴場とケヤキで作った露天風呂があり、目の前には大迫ダム湖畔のパノラマが広がります。

＜体験施設＞　「森と水の源流館」は、川上村の豊かな森と水の恵みを体感できる施設です。迫力あるスクリーン映像と巨大ジオラマで水源地の森を感じてください。自然体験プログラムなども実施しています。

「匠の聚」は、各地からアーティストたちが移り住み、想いを形にする創造の森。中心となるギャラリー＆カフェには、作り手の個性豊かな作品が展示され、四季折々の表情を見せる山々を望みながら手作りの器と飲食が楽しめます。また、陶芸などの体験教室を開講している工房や宿泊できるコテージを備え、アートと自然を満喫できるスペースがあります。

匠の聚

他にも、自然の渓流をそのまま生かした釣り場が数箇所あり、一年を通してアマゴやマスの釣りやつかみ取りが楽しめます。釣ったその場で塩焼きにして食べる味は格別です。

＜移住・子育て支援＞　川上村では近年、全国各地から移住される方が増えており、そのような方々へのサポートを充実させています。移住される方の不安を解消し、村のことをもっと知っていただくため、仕事のご相談から住まいのご紹介まで行う「川上ingツアー」の開催や、空き家バンクの運営、各種補助金制度等もあります。

子育て支援にも力を入れています。18歳以下の子どもにかかる医療費の全額補助はもちろん、0～2歳のお誕生日毎に10万円を交付する「子ども祝い金」、16～18歳までの子ども一人あたり月5千円を支給する「子育て応援手当」、また平成28年度から保育園の保育料を無料とするなど、子育て世帯にうれしい制度がたくさんあります。子育て世帯の方、ぜひ一度川上村へお越し下さい。

ふるさとコーナー ユーモアあふれる伝承の残るまち 川西町

【概要】

川西町は大和盆地のほぼ中央に位置する東西3.4キロメートル、南北1.9キロメートル、総面積5.93平方キロメートルの町です。地場産業の「貝ボタン」は全国トップシェアを誇り、結崎ネブカの生産地として全国的に知られています。能楽観世流発祥の地であり、由緒ある神社が存在する歴史ある町でもあります。古くは水運や農業の町として発展してきましたが、近年においては住宅地開発や工業団地の誘致等により、コンパクトな田園都市の機能を備えた緑豊かな町です。

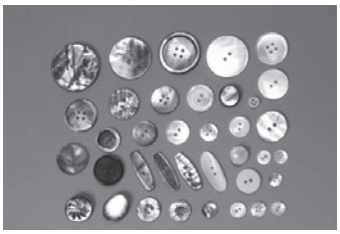
【特産品：結崎ネブカ】

～戦前（太平洋戦争前）まで大和野菜の雄として栄えた甘くておいしい幻のネギ～

以前は結崎をはじめ大和平野で広く栽培されていましたが、特に結崎村（現川西町）で多く栽培されていたことから「結崎ネブカ」と呼ばれています。結崎ネブカは「緑葉部が柔らかい」「とろっとした濃厚さ」「甘みが引き立つ」など独特の特色を持ちます。煮炊きや焼き料理では独特の甘みと美味しさが加味されます。

【地場産品：貝ボタン】

～ 海のない町のとっても意外な特産品 ～



明治20年ごろ、ドイツ人技術者により神戸に伝えられた貝ボタン産業は、明治38年ごろには奈良県に本格的に伝わりました。大正時代に、貝ボタン産業は急成長を遂げ、川西町の経済の重要な位置を占めていました。近年では環境にやさしく、天然素材の奥深い光沢が魅力のほか、レーザー彫刻などの技術革新によって、近代的な技術と昔ながらの手づくり感が兼ね備わった付加価値のある商品として再注目されています。

【面塚】

室町の世、翁面と葱が空から降ってきたという伝承が残ることから、能楽観世流発祥伝承地といわれている川西町。面塚はこれを記念して建てられた石碑です。碑に刻まれた「観世発祥之地」の文字は二十四世観世左近の筆によるものです。

～面塚に伝わる伝説～

室町時代のある日のこと、一天にわかにかき曇り、空中から異様な怪音とともに寺川のほとりに落下物がありました。この落下物は、一個の翁の面と一束の葱で、村人は能面をその場にねんごろに葬り、葱はその地に植えたところ見事に生育し、結崎ネブカとして名物になりました。

川西町公式Facebook「奈良県川西町」が平成28年10月よりスタート！！

https://www.facebook.com/kawanishi.nara/

町の出来事やイベント情報などをリアルタイムにお伝えします。
是非、ページや投稿に「いいね！」をしていただき、一緒に川西町を盛り上げてください。

QRコード

新理事紹介

吉野町上市で生まれ育ち、大学時代は東京の養徳学舎でお世話になり、卒業後はずっと東京で勤務いたしております。気が付けば人生の３分の２以上は東京暮らしですが、中身はコテコテ（？）の奈良県人のままだと思っております。微力ではございますが、他の役員の方々とともに柗本会長を支え、より楽しく活発な県人会を目指して少しでもお役に立てるよう努めて参る所存です。会員の皆さま方におかれましては、今後とも御指導御鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

齊藤宗孝（吉野町）

私は2009年より上京、奈良県アンテナショップの運営や奈良関連の各種プロモーションに携わっております。仕事上、東京と奈良を行き来する機会が多く、また若手の会の運営委員も仰せつかっており、微力ながら、連絡連携係として、東京奈良県人会のお役に立てればと思っております。この度は身に余る重責ではございますが、なにとぞ格別のご指導とご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

別所　史（奈良市）

奈良新聞社東京支社に勤務しております。2000年に転勤で東京に来て以来、首都圏における「奈良」をキーワードに取材活動を行っています。これまで東京奈良県人会とは取材対象としてお付き合いさせていただいてきましたが、このたび、お声掛けいただき、お手伝いさせていただくことになりました。昨今、奈良が新たな注目を集めるようになっていると感じています。控えめな奈良県出身者が若手を中心に活動を活発化させています。皆さんとともに奈良の魅力を掘り起こし、東京で発信していきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

矢部　創（奈良市）

東京奈良県人会の理事就任にあたり、ご挨拶を申し上げさせていただきたく存じます。まずは、私を理事として承認していただき誠にありがとうございます。会員の皆様のお役に立てるように尽力させていただく所存ですので、今後ともよろしくお願いいたします。

さて、私の当会での活動で最も思い出深いのは「奈良フェスタin上野公園」です。奈良フェスタの成功のために多くの会員や県庁の皆様と行った協同作業は今でも鮮明に覚えております。東京奈良県人会の更なる発展のために、会員の皆様と協力して我々の故郷奈良を更に盛り上げていけるような企画にも挑戦していきたいと考えております。私の挑戦を成功させるためには皆様のご支援ご指導が不可欠です。皆様の格別のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

松本昌之（広陵町）

今後の予定

◉第２回奈良県人会全国大会

第１部（交流会）

日時：平成29年１月28日（土）午後１時～５時
会場：ホテル日航奈良「飛天」
　　（奈良市三条本町８－１）
電話：0742－35－8831
会費：8000円（県人会から全額補助します）

第２部（エクスカーション）

日時：平成29年１月28日（土）
　　午後５時半～９時
会場：平城宮跡　大極殿前特設会場
内容：あったかもんグランプリ見学、若草山焼き鑑賞、大立山まつり鑑賞

※第２部会場へはホテルからバスで移動します。

〔※詳細お申し込みは、同封資料をお読みください。〕

◉新年会

日時：平成29年２月10日（金）18時半を予定　※会場などは決まり次第、ご案内します。

会費納入のお願い　年会費未納の方には振込用紙を同封していますので、お振込みをお願いします。

平成28年12月　発行